



マンガン

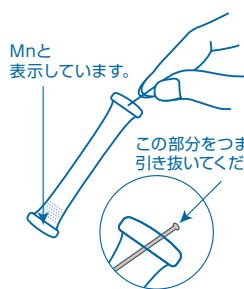
型式 WAK-Mn

過よ素酸カリウム比色法による
Potassium Periodate Visual Colorimetric Method

主試薬 過よ素酸カリウム

測定範囲 Mn 0.5~20 mg/L (ppm)

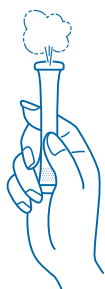
測り方



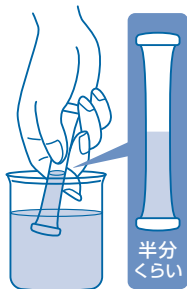
Mnと表示しています。

この部分をつまんで引き抜いてください。

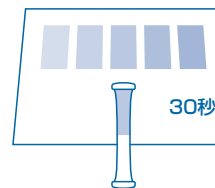
① チューブ先端のラインを引き抜きます。



② 穴を上にして、指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を追い出します。



③ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、半分くらい水を吸い込むまで待ちます。液がもれないようにかるく5~6回振りまぜます。



④ 30秒後に図のように標準色の上ののせて比色します。

デジタルパックテスト、デジタルパックテスト・マルチでも測定可能です。



比色と測定値の読み方

指定時間後にチューブ内の水の色を標準色と比べ、一番近い色の値がその検水の測定値になります。標準色の色と色の間の場合は、だいたいの中間の値を読んでください。

パックテスト使用前、使用後の取扱い注意

応急措置

内容物が目に入ってしまったら → すぐに多量の水で洗い流してください。
内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。
内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。
内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。

保管

ラミネート包装を開封した後は、なるべく早くご使用ください。

廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。
それ以外の場合は、チューブはそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨しています。

試薬に関するお知らせ

本製品は、取扱者へのSDSの提供を義務づけた「PRTR法」、「労働安全衛生法」および「毒物及び劇物取締法」には該当しません。



パケットテスト マンガン

特徴

この製品は、JIS K 0102 56.1、JIS K 0101 58.1 等の過よう素酸吸光光度法と同一の発色原理を用いており、工場排水(一律排水基準:溶解性マンガンとして10mg/L)や環境水をはじめ、いろいろな検水中の2~7価のイオン状態のマンガンを簡単な操作で測定することができます。

細かい測定値が知りたい場合は、デジタルパケットテスト(型式 DPM-Mn)、デジタルパケットテスト・マルチ(型式 DPM-MT)をご利用ください。なお、パケットテストとは測定範囲、反応時間、共存物質の影響が若干異なりますのでお問い合わせください。1mg/L以下の低濃度の測定には、パケットテスト・ズーム(型式 ZM-Mn 測定範囲 0.02~1mg/L)をご利用ください。

注意

1. この方法では、検水中の2~7価のイオン状態のマンガンのみが測定されます。濁り、沈殿等を含めた測定値が必要な場合は、あらかじめ溶解してから測定してください。
2. 発色時のpHは、約7です。pHが5~9の範囲をこえる検水は希硫酸または希水酸化ナトリウム溶液等で中和してから測定してください。特に緩衝性が強い検水はpHを6~7に調整してください。発色が黄色味を帯びている検水はpHがアルカリ側にずれている可能性があります。
3. 1000mg/Lのマンガン標準液では、標準色の「20」と同等以上に発色しますが、沈殿も生じます。高濃度が予想される場合には、あらかじめ希釈してから測定してください。
4. 検水の温度は15~40℃で測定してください。水温が低いと発色に時間がかかります。
5. 1回で検水をチューブの半分近くまで吸い込めなかった時には、穴を上にして空気を追い出し、もう一度やりなおしてください。
6. 比色する時に、多少試薬が溶解せずに残っていても測定には影響ありません。
7. 比色は昼光で行なってください。直射日光や一部の蛍光灯、水銀灯、LEDでは比色が困難になることがあります。
8. 発色後にラインをチューブ先端の穴に戻すと、チューブ内の水がもれなくなります。

共存物質の影響

標準色は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。下記は、標準液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

1000mg/L 以下は影響しない	...	Al ³⁺ 、B ³⁺ (ほう酸)、Ba ²⁺ 、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、F ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺ 、残留塩素、陰イオン界面活性剤、ホルムアルデヒド	
200mg/L	//	...	Ni ²⁺
100mg/L	//	...	NO ₂ ⁻
50mg/L	//	...	Cu ²⁺
20mg/L	//	...	Cr ⁶⁺ (クロム酸)、Fe ²⁺ 、Fe ³⁺ 、フェノール
10mg/L	//	...	CN ⁻
5mg/L	//	...	Cr ³⁺ 、I ⁻
1mg/L	//	...	Co ²⁺

海水は影響しません。

還元性物質が多いと、測定値が低くなります。例えば、亜硫酸水素ナトリウムの場合、10g/L以上の共存で測定値に影響します。